スーパー　グローバル　ハイスクール
SGH
佐野高中高一貫教育校
アソシエイト通信
Ｎｏ．２４（平成２８年３月１日発行）

卒業生からのメッセージ

～ 下野新聞・読者登壇「１０代の声」掲載作品より ～

3年生の文系で進路の決まった生徒を対象に、国語の授業で「**意見文を書く**」という取組を行いました。自分の書いた文章を生徒同士で**相互批評**することで、自分の思いが伝わるよう、文章の完成度を高めました。さらに、新聞の投書欄に投稿することで、第三者の目で、その文章を評価していただきました。結果として、多くの文章が「**10代の声**」として掲載されたことは、「意見文」として、思いが確かに伝わった証であるとともに、一人一人の人間的な成長を示すものでした。掲載されなかった文章であっても、その思いはぎっしり詰まっていたはずです。

在校生のみなさんは、これらの投稿作品から、３年生の心の声を感じ取ってください。それは、卒業生からみなさんへの**メッセージ**でもあります。

10代の声

2/18

思いが届くから メールより手紙

足利市　石崎　華珠（高校3年　18歳）

◇携帯電話やスマートフォンが普及した今日、遠くに住む友人とのやりとりは専ら電子メールかラインで行う。それらはとても便利で手放しがたい存在だが、私は時々、便箋を取り出す。離れて暮らす祖母に送る手紙を書くためだ。

◇祖母は携帯を持っている。使い慣れないとは言うが、一通りの使い方は覚えているようだ。しかし、私は手紙を送る。急いでいるときは電話も使うが、手紙を用いるのが私はとても好きだ。相手を思って選んだ便箋に、読みやすさを意識して大きく文字を書く。時間がかかっても、それは私にとっては電子メールに文字を打ち込むよりも、よほど幸せな時間なのだ。

◇大事な友人の誕生日などにも手紙を書く。インターネットの発達により、紙媒体の消失を懸念する声があるが、思いを込めるのに最適な「紙」の文化が廃れることがないように、と願うばかりだ。

2/19

大切な恩師の死 教え守り頑張る

足利市　篠　みつ子（高校3年　18歳）

◇昨年12月、私が中学生の頃からお世話になり、一番の恩師であった先生が突然亡くなってしまいました。天国の先生に伝えたいことがあるので、手紙を書きます。

◇先生に会えなくなってから1カ月以上が過ぎました。私たちのことが空からよく見えますか。先生のお葬式の前日に、先輩や後輩から先生との思い出の手紙を集めました。一日声を掛けただけなのに56人もの手紙が集まりました。そこには一人一人の先生との思い出が詰まっていて、私はその手紙を家族の方に届けました。学校での先生のことを知ってもらえたらいいなと思っています。

◇先生は部活中、自転車に乗り私たちを追い掛け、いつもげきを飛ばし、つらいときは仲間と頑張れば乗り越えることができ、それが最高の思い出になることを教えてくれました。先生の死はとてもつらいことです。でも、乗り越え方を知っています。先生、私、大学生活頑張ります。見守っていてくださいね。

2/20

喜びを得るため 日々の練習大切

足利市　長浜　瑠花（高校3年　18歳）

◇たった50㍍泳ぐために、私は毎日2時間、何千㍍にも及ぶ練習をしています。水泳は個人競技であり、練習中はプールの底とにらめっこしながら黙々と泳ぎます。学校が終わると、友達と遊ぶこともなくまっすぐ家に帰り、10年以上通うスイミングスクールへ向かいます。

◇私はふと、どうしてこんなに頑張っているのだろうと思うときがあります。泳ぐことは好きですが、挫折やスランプでつらいことの方が何倍も多いです。しかし、大会などで水泳の友達に会うと、思います。私は皆と切磋琢磨しながら頑張っているのだと。またベストタイムが出たとき、つらかった記憶が吹き飛ぶほどうれしい気持ちがこみ上げてくるのだと。

◇その喜びを得るために、苦しい水の中で同じことを繰り返していくのです。これは頑張った人にしか味わえません。私はまた、水の中に飛び込んでいきます。

10代の声

2/21

安価で乗れる寝台列車復活を

佐野市　富田　龍道（高校3年　17歳）

◇3月のダイヤ改正で、青森ー札幌間の夜行急行「はまなす」、上野ー札幌間の寝台特急「カシオペア」が廃止される。これでJR東日本には寝台列車が全てなくなる。

◇そうした中、JR東は新たに「四季島」という豪華列車を運行させる計画という。豪華列車といえばJR九州の「七つ星」が有名だ。だが、豪華列車は「はまなす」などに比べて値段がとても高く、簡単には手が出ない。お金や時間に余裕がある人は利用できるが、若者にとっては厳しい。豪華列車を運行することはよいことだが、もう少しリーズナブルな形で利用できる寝台列車も運行してほしい。

◇最近、鉄道は移動手段だとの考え方が強くなり、目的地到達が速い新幹線利用が多くなっている。それでもなお、列車の旅を楽しみたい人も多くいるに違いない。誰でも利用できるような価格の寝台列車の復活を願う。

2/22

夢は舞台の仕事　実現へ日々努力

足利市　杉田萌々香（高校3年　18歳）

◇私は4月から美術系の学校に進むことが内定しました。専門学校で学費も高く、周りの人にはあまりよく思われず、男手一つで私を育ててくれた父に金銭面などで負担を掛けてしまったと思っています。しかし、私にはどうしてもやりたいことがあります。

◇私は演劇など舞台を見ることが好きで、嫌なことがあっても見に行けば、まるで自分も違う世界に来たかのような気持ちになれる作品が好きです。観劇することは、人を癒やすだけではなく、知識を与えたり、今までとは異なった目線で物事を考えられるようになれる手段の一つだと思います。

◇そのため私は、その手段を与えることのできる舞台の仕事に携わりたいのです。そして演劇をもっと身近に感じてもらい、いつか私も人の心を動かし、支えとなるような作品に携わることができるよう、日々努力していこうと思います。

2/25

分類に縛られず　個人の幸せ追求

佐野市　寺内　美晴（高校3年　18歳）

◇あるコラムによると、働く女性は大きく二つのグループに分けられるらしい。「バリキャリ」と「ゆるふわ」だ。前者は外資系や総合商社、大手メーカーに勤め、結婚や育児に関心が薄い傾向にあるそうだ。後者は金融や商社の一般職、公務員になり、ワークライフバランスを重視し、結婚や育児に強い関心を持つようだ。婚期を逃しそうな総合職は避けるようである。

◇この論法だと、バリバリ働く女性は結婚できないということになってしまう。女性の社会進出が進む今、バリキャリが増えれば結婚率は低下し少子化が進む一方だろう。

◇果たして女性の仕事事情をこんな単純に分類してよいのだろうか。世の女性たちにはこの二元論に縛られることなく、自由に仕事をしてほしいと思う。バリキャリでも結婚したくなるときがあれば、ゆるふわでも生涯独身かもしれない。皆それぞれ女性としての幸せを追求してほしいと思う。

2/27

勉強だけでなく　生活の知恵学ぶ

佐野市　赤坂　直美（高校3年　18歳）

◇このところ毎日、料理を作るようにしている。春からは大学生になり、今まで頼りきりだった家事を一人でこなさなければならなくなる。

◇初めは料理なんて、家庭科で習ったし簡単だろうと高をくくっていたが、実際にやってみると案外手間取った。フライパンから少し目を離した隙に、肉が焦げ、絶品とまではいかなくとも並には完成するだろうと思っていたハンバーグは、黒い塊になってしまった。毎日一人で数種類の料理を完成させつつ、片付けも並行して終わらせてしまう母のすごさを痛感した。

◇春までに覚えなければならないことは料理のほか、掃除、洗濯と山積みだ。冬の水の冷たさは嫌になることもあるが、むしろ好機だと思い、勉学にいそしむだけでなく、机上では学べない生活の知恵も増やしていきたい。

お知らせと訂正

海外グローバル研修の「課題研究発表会」（２月１１日）の上位（１位～３位）の班の発表を佐高の HP から動画配信しています。ぜひ、ご覧下さい。

また、本通信 No.22 で紹介した３位の班が間違っていたので訂正します。

（正）→ チーム名：IMOFURAI